

視 察 研 修 旅 行

文化啓発委員会は、12月12日から15日、ベトナム中部への視察研修旅行を実施した。

＜初日＞【ダナン】ホーチミン、ハノイに次ぐ3番目の都市ダナン。海外企業の生産拠点だけでなく、ビーチリゾート、世界遺産への観光起点としても注目されている。昨年就航した関空からの直行便で5時間30分、ダナン空港に到着した一行20名はバスに乗り換え、大聖堂、ドラゴン橋、五行山（儒教の五行思想の名がついた信仰連山）を見学した。フランスの植民地だったベトナム。夕食のフレンチは美しく盛り付けられ、フランスパンと共に大変美味で歓談が進んだ。（ダナン泊）



ドラゴン橋

＜2日目＞【フエ】ベトナム最後の王朝、グエン朝（1802-1945）の都がおかれたフエ。バスを2時間30分走らせ、世界遺産に登録されている王朝の建造物、カイディン帝廟（洋式建築が取り入れられた12代カイディン帝の廟）、「ティエンムー寺」（1601年に建てられた八角形七層の塔を持つフエのシ

ンボルの寺院）、「グエン朝王宮」（グエン朝13代にわたる皇帝の居城）を見学した。ホテルでの夕食前には、経済倶楽部恒例、西窪正男氏のお呈茶。海外で頂く西窪氏特製の干し柿のブランデー漬とお抹茶は格別で、旅の疲れも癒された。（ダナン泊）



グエン朝王宮

＜最終日＞【午前：ミーソン遺跡】2～17世紀にベトナム中南部で外国との交易で栄えたチャンパ王国の中心的聖地ミーソン。ベトナム戦争により多くが破壊されたが、世界遺産に登録された1500年以上前の遺構はベトナムのアンコールワットとも言われている。現在では修復不可能と言われる積み重ねられたレンガの遺跡にはヒンドゥー教の神々のレリーフがみられた。遺跡管理小屋でのチャムダンスショーも見ごたえがあった。

【午後：ホイアン】かつてアジアとヨーロッパの交易の中心地として栄え日本人街もあったホイアン。国営のシルク工場では、養蚕から作った絹糸で職人の女性

達が絵画にも勝る刺繍画を刺していた。約180年前の街並みが残る市街は風情ある木造建築が立ち並び、魅力的なベトナム雑貨店が並んでいて飽きない。多くの観光客が行き交う中、フーンフンの家（200年前の貿易商人の家）、日本橋（1593年ホイアンに住む日本人が建造した屋根付きの橋）、海のシルクロード博物館（貿易陶磁博物館）、福建会館（福建省出身の華僑たちの集会所）を見学した。安倍首相も来店したサクラレストランでの夕食ですべての行程を終えた一行は、0時30分発の夜行便に搭乗、早朝に関空に到着した。

ベトナムは雨期で天気が心配されたが、傘を使うこともなく青空も見ることが出来た。ベトナム中部は、かつての王朝の栄華を偲ぶ世界遺産と共に、リゾート地として開発された近代的なホテルやビーチがあり、まだまだ発展途上にある住民生活の中に多くの若者達の熱気が感じられる、大変魅力的な国だった。



日本橋